



今できること、「考える」から「行動する」へ！



「移動」を「エコ」に。
smart move

広がっていく、スマート・ムーブの輪。

通勤・通学・買い物などの「移動」に伴うCO₂排出量は、生活分野全体の3割を占めるといわれています。そこで注目されているのが、移動手段を工夫して地球温暖化防止をめざす「スマート・ムーブ」。物流や営業など自動車を使うことが多いビジネスシーンでも、スマート・ムーブを実践する企業がたたく急増中。家庭へ、会社へ、地域へ、スマート・ムーブの輪と一緒に、地球の未来への希望が広がっていきます。

スマート・ムーブの輪

01 スマート・ムーブでスマート・ビジネス。

北海道ガス（株）

CO₂ゼロのシェアサイクル「ポロクル」で都心部の移動もスムーズ。

営業では社用車やタクシーを使うことが多いのですが、都心部では交通渋滞の原因にもなる上、駐車料金も掛かります。そこで今春からサイクルシェアリング「ポロクル」を導入しました。手軽に使用して、駐車場を探す必要もなく移動もスムーズ。おまけにCO₂を排出することなく健康的なメリットも多く、社員も積極的に利用しているようです。本年度、当社では月平均で約83回ポロクルを利用しました。来シーズンもポロクルを継続するとともに、当社が導入を進めている天然ガス自動車の活用も含めて、今後もCO₂削減に協力していければと思っています。



▲北海道ガス（株） 総務部長 木村 元さん



▶北海道ガス前にある「ポロクル」のポート

コープさっぽろ

宅配トラックにBDFを導入。ガソリン不足の震災時にも活躍しました。

軽油より割安で再生可能なBDF（バイオディーゼル燃料）は、化石燃料に代わるバイオマスエネルギーとして注目を集めています。コープさっぽろの宅配システム「トドック」では、組合員から回収した廃食用油を再利用したBDFで走るトラックを2008年から導入。その数は年々増加し、2010年には世界最多の300台に到達。ギネス世界記録に認定されました。東日本大震災の際にはガソリン不足の現地を支援するためにBDFトラックを支援団と共に派遣。緊急時のインフラのひとつとしてもお役に立っています。



▲コープさっぽろ 宅配本部長 宮嶋 美典さん



▶被災地で支援する「トドック」のBDFトラック

（株）NTTデータ北海道

CO₂も渋滞もコストも減らせる！社用車＝カーシェアリングという発想。

以前は社用車をリースしていましたが、帳票の電子化などにより運搬業務が減少。必要なときだけ自動車をレンタルできるカーシェアリングシステムを契約しました。リースや駐車場の経費が軽減された上、洗車やメンテナンスも不要。ムダな走行を減らすことで都心の交通渋滞緩和やCO₂削減にも寄与できるのも、企業市民として大切なことだと感じています。社用車として使ったことがきっかけで、個人的にカーシェアリングを活用し始めた社員もおり、スマート・ムーブの拡大につながればうれしいですね。



▲（株）NTTデータ北海道 営業部主任 金澤 綾美さん

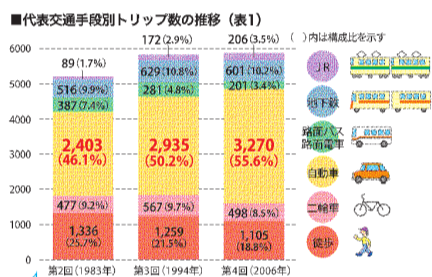


▶利用時はお近くの車両ステーションで予約

スマート・ムーブの輪

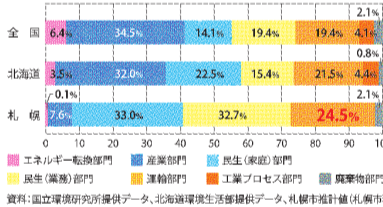
02 データで見る札幌の“移動”の現状。

北海道と札幌市は2006年に道央都市圏のパーソナルトリップ調査を実施しました。これは1日1人の移動状況を多角的に調査したもので、たとえば代表交通手段トリップ数の推移（表1）をみると、自動車の移動が増加していることが分かります。また、札幌市は運輸部門のCO₂排出量が全国および全道の比率よりも高く（表2）、短時間の移動に自動車を使う人が多い（表3）のが特徴です。とはいえ「環境や健康のために自動車の使い方を考え直してみたい」という人が約8割と、多くの方が“移動”を意識しているのも事実。今後ますますスマート・ムーブに注目が集まりそうです。



※代表交通手段とは、複数の交通手段を使った場合の主な手段のことです。交通手段の優先順位は、鉄道(地下鉄・JR)＞バス・路面電車＞自動車＞二輪車＞徒歩の順です。

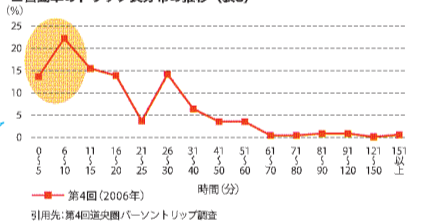
■部門別の二酸化炭素排出割合【2008年度】(表2)



札幌市の運輸部門の二酸化炭素排出量は24.5%を占めており、全国及び全道の比率よりも高くなっています。

ちょい乗り(0~10分)で、自動車を利用する人が多い。

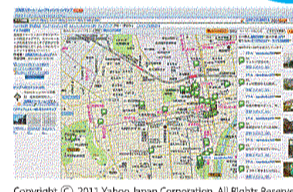
■自動車のトリップ長分布の推移 (表3)



スマート・ムーブの輪

03 面白スポットや新たな発見を投稿しよう！

現在北海道全域を中心に、「北海道smart move 大作戦！」を展開中。期間中に公共交通機関を利用し、新たな発見や面白スポットなどをyahooのワイワイマップに投稿してください。エコな移動を通じ、今まで見てこなかった新たな街の魅力が見えてくるはず！詳細は、下記の北海道エコ・アクションホームページ内特設サイトをご確認ください！また企業単位でのsmart move宣言登録も受付中です！企業エントリーをご希望の場合、メールでkokoku2@hokkaido-np.co.jpまでご連絡ください。皆さまのエントリーをお待ちしております！



投稿していただいた方の写真をご紹介します！

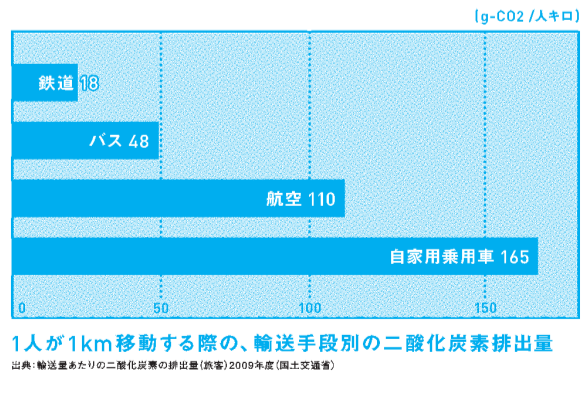
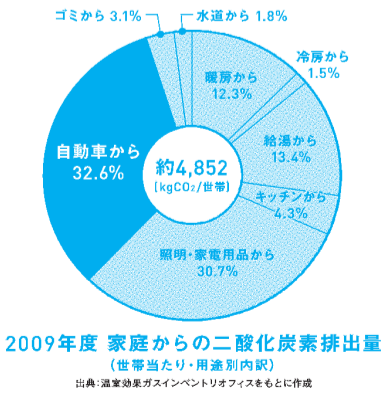


企業登録 いただくと 特設サイト & 環境省「smart move」サイトでもご登録企業名をご紹介します！

▶詳細はホームページへ <http://eco.hokkaido-np.co.jp> 北海道エコ・アクション 検索 企画制作/北海道新聞社広告局

smart moveでCO₂を削減。いつもの暮らしから、始めよう。

smart move(スマートムーブ)とは、日常生活のさまざまな移動手段を工夫し、CO₂排出量を削減しようという取組です。家庭から排出されるCO₂では、自動車からの排出量が3割以上と最も多くなっています。また、日常生活の移動に伴うCO₂排出量は移動手段によって大きく異なります。私たちが毎日の通勤・通学・買い物で意識的に歩いたり、自転車や公共交通機関を利用したり、自動車の使い方を工夫するなど、CO₂排出量の少ない移動を実践することは環境にも健康にもうれしいこと。「移動」を「エコ」に。smart move、ぜひあなたも、ご一緒に。



smart moveが推進する5つの取組

1. 電車、バス等の公共交通機関を利用しよう
外出時にはできるだけ電車やバスを利用しましょう。ハイブリッドバスやLRT*などの低炭素の公共交通、太陽光など自然エネルギー利用の車両等も登場しています。
*LRT:ライトレール・トランジットの略。低炭素車両の導入による移動のパフォーマンス向上、人と環境にやさしい次世代都市型電車システム。
2. 自転車、徒歩での移動を見直そう
CO₂排出量ゼロの自転車や徒歩は究極のsmart move。渋滞の起こりやすい都市中心部などは積極的に自転車や徒歩で。地球環境にやさしく、かつ健康的です。
3. CO₂削減のための新しい取組に参加しよう
【カーシェアリング】1台の自動車にかかる費用を複数の会員で分担、利用するサービス。【コミュニティサイクル】借りた自転車を、違う場所で返却できる公共交通システム。
4. 長距離移動を工夫しよう
目的地へも、旅先でも公共交通機関の利用を。現在では飛行機の利用や旅行時に排出されるCO₂をオフセット(埋め合わせ)できるエコ旅行やエコ出張の取組も登場しています。
5. 自動車の利用を工夫しよう
「ふんわりアクセル」や「アイドリングストップ」等のエコドライブを実践すると、燃費が約1/4も改善され経済的。ハイブリッド車やEV車などエコカーへの乗り換えもCO₂を大幅に削減できます。



スマートムーブの取組に賛同していただける企業・団体を募集しています。 ((スマートムーブ 検索 環境省 Ministry of the Environment))